

II. 監査対象の概要

1. 農政費予算等概要

今回の監査対象である農政費の予算及び決算規模概要は以下のとおりである。

第9款 農政費

(単位：千円)

項	目	担当課	R5年度 当初予算額	R5年度 決算額
1 農政費			4,629,673	4,533,667
	1 農政総務費	農政課	2,841,117	2,827,545
	2 農政企画費	農政課	13,772	11,902
	3 旧競馬施設 維持管理費	農政課	116,937	93,502
	4 農業協同組 合指導費	農政課	8,365	7,795
	5 農業技術セ ンター費	農業技術セ ンター	740,195	720,023
	6 蚕糸技術セ ンター費	蚕糸技術セ ンター	202,544	202,319
	7 水産試験場 費	水産試験場	188,515	170,727
	8 畜産試験場 費	畜産試験場	518,228	499,854
2 農業構造政 策費			2,001,014	1,594,415
	1 農業構造政 策総務費	農業構造政 策課	486,113	486,466
	2 農地調整費	農業構造政 策課	357,428	257,492
	3 農業構造改 善対策費	農業構造政 策課	457,895	331,814
	4 農業者育成 対策費	農業構造政 策課	335,480	185,498
	5 農業金融等 対策費	農業構造政 策課	123,992	103,161

	6	農林大学校費	農林大学校	240,106	229,983
3	技術支援費			1,149,507	1,093,350
	1	技術支援総務費	技術支援課	345,756	383,009
	2	普及指導費	技術支援課	65,633	62,646
	3	農業災害対策費	技術支援課	2,539	2,423
	4	鳥獣害対策費	技術支援課	581,180	409,397
	5	農業環境保全費	技術支援課	57,199	157,547
	6	植物防疫対策費	技術支援課	23,598	15,553
	7	鳥獣被害対策支援センター費	鳥獣被害対策支援センター	73,602	62,775
4	蚕糸園芸費			2,466,763	1,379,069
	1	蚕糸園芸総務費	蚕糸園芸課	209,031	191,191
	2	野菜振興費	蚕糸園芸課	586,454	426,331
	3	花き振興費	蚕糸園芸課	491,447	515,806
	4	農産振興費	蚕糸園芸課	1,001,077	76,638
	5	特産果樹振興費	蚕糸園芸課	20,909	12,557
	6	蚕糸振興費	蚕糸園芸課	133,739	131,174
	7	水産振興費	蚕糸園芸課	24,106	25,372
5	ぐんまブランド推進費			657,837	298,252
	1	ぐんまブランド推進総務費	ぐんまブランド推進課	95,644	110,568
	2	販売戦略推進費	ぐんまブランド推進課	98,785	82,496
	3	農畜産物等	ぐんまブランド	368,957	55,820

		輸出促進費	ント推進課		
	4	食品流通対策費	ぐんまブランド推進課	94,451	49,368
6	畜産業費			2,464,414	3,222,421
	1	畜産総務費	畜産課	439,989	419,636
	2	企画経営費	畜産課	117,661	247,420
	3	飼料牧野費	畜産課	512,607	1,317,667
	4	畜産振興費	畜産課	44,207	537,304
	5	家畜保健衛生費	畜産課	1,206,053	591,231
	6	家畜環境整備費	畜産課	39,556	13,992
	7	浅間家畜育成牧場費	畜産課	104,341	95,171
7	農村整備費			7,449,630	7,412,470
	1	農村整備総務費	農村整備課	644,431	648,652
	2	土地改良調査費	農村整備課	109,650	99,198
	3	農村整備対策費	農村整備課	760,000	755,894
	4	農村整備保全費	農村整備課	1,573,790	1,366,078
	5	農村整備費	農村整備課	4,204,232	4,391,699
	6	中山間対策費	農村整備課	157,527	150,950
合計				20,818,838	19,533,644

2. 群馬県が作成している農業関連の計画等について

本県では、農業が魅力ある産業として成長し、農村がより一層活性化することで、将来にわたって県民生活に不可欠な農畜産物の安定供給が図られるとともに、農業・農村の魅力が向上するよう、県の全体計画である「新・総合計画(ビジョン)」を踏まえ、「群馬県農業農村振興計画 2021-2025」を策定している。当該計画は、本県の農業分野における最上位計画として位置づけされている。

概要は以下のとおりである。

◆農業・農村の現状と課題

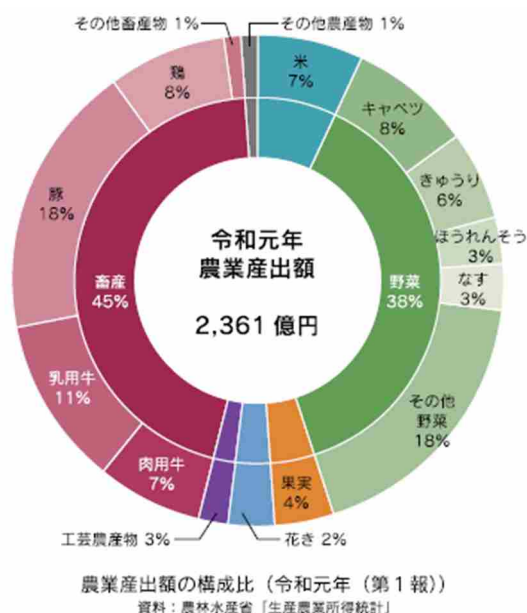
(1) 本県農業・農村の特徴

本県は、雄大な山々を背景に豊富な水資源、全国トップクラスの日照時間、標高 10m の平坦地から 1,400m の高冷地まで広がる耕地を有している。また、東京から 100 km 圏内に位置し、高速道路や鉄道網の整備により交通の要衝として発展している。

このような恵まれた環境を生かして、多彩な農業が営まれている。さらに、本県の農業・農村は、水源の涵養、美しい景観の形成や食文化の伝承等にも寄与している。

本県の農業産出額の構成は、野菜と畜産物で全体の約 8 割を占めている。野菜では、生産量全国第 1 位を誇るキャベツや全国第 2 位のきゅうり、畜産では乳用牛や豚等、全国トップクラスの生産量・飼養規模を誇る品目が多数ある。また、工芸農産物であるこんにゃくいもは、全国 1 位で生産量シェア 90%以上を誇る。

その他、粉食文化を担う小麦をはじめ、下仁田ねぎ、繭と生糸、しいたけやまいたけ、ニジマスやアユ等、特色ある農林水産物の生産も盛んに行われている。



（２）農業・農村の課題及び農業生産基盤の脆弱化

本県の農業・農村では、農業者の高齢化や減少、農地面積の減少、野生鳥獣による農作物被害の増加等の課題が存在しており、農業生産基盤の脆弱化が危惧されている。また、過疎化が進行することで、農業生産のみならず、集落機能の低下も懸念されている。

国内外の環境変化

- ① 急速に進む社会経済のデジタル化
- ② 人口減少による国内市場の縮小・グローバル化の進展
- ③ 消費者ニーズの多様化・流通チャネルの多角化
- ④ 台風や豪雨等の大規模自然災害の多発
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症による需要減少や人手不足

◆計画策定の考え方

（１）基本理念

本県の農業・農村を振興する上で継承してきた基本理念として、次の３つを掲げている。

農業を営んでいる農業者はもちろんのこと、未来の担い手が活躍できる環境の整備や、農業生産基盤を強化して農業生産の増大を図る。また、地域資源の活用や都市農村交流等を推進することにより、県民の暮らしを支える農村を活性化させる。さらには、将来にわたって安全な農畜産物を安定供給することにより、県民の豊かな食生活を支える。

1	魅力ある産業として発展し続ける力強い「農業」
2	県民の暮らしを支える活力ある「農村」
3	安全・安心な「食」を安定提供する「農業」「農村」

（２）農業・農村の将来ビジョン（農業・農村の目指すべき姿）

県の上位計画である新・総合計画（ビジョン）が目指す、「誰一人取り残さず、誰もが幸福を実感できる自立分散型社会」を実現するためには、本県の農業と農村が果たす役割は大きく、「始動人」たる農業者が活躍し、技術革新によるイノベーションを起こすことで質の高い成長への転換を図り、強く自立した持続可能な地域経済を実現することが重要となる。また、農業者をはじめとする県民、農業関係団体、企業、NPO、大学や研究機関等の関係者がつながることで形成される「官民共創コミュニティ」の取組を推進して、地域課題を解決するモデルを生み出し、地域農業を活性化させていくことも重要である。

そこで、本県農業・農村の現状・課題や新たな視点を踏まえた上で、これまで継承してきた基本理念に、新・総合計画（ビジョン）の考え方・哲学を融合させることで、「農業・農村の目指すべき姿」を以下のように再整理した。

強く自立した持続可能な地域経済
活気に満ちあふれた農村
県民の豊かな食生活

（３）基本目標

農業・農村の目指すべき姿の実現に向けて、次の「基本目標」を掲げている。

「未来へ紡ぐ！豊かで成長し続ける農業・農村の確立」

【総合指標】

	令和元年度		令和７年度
農業産出額	2,361 億円	⇒	2,600 億円

総合指標である農業産出額 2,600 億円を達成するため、農業経営体や耕地面積が減少する中、生産基盤の整備や担い手への農地集積・集約化による生産性の向上、経営の効率化を進めるとともに、農業新技術の導入等による省力化や高品質生産を促進することで、農業経営体の生産農業所得の向上や規模拡大等を図り、力強い農業構造の確立を目指す。

（農業経営体・農地利用）

	令和元年度		令和７年度
1 農業経営体あたりの生産農業所得	414 万円	⇒	540 万円
1 農業経営体あたりの耕地面積	3.1ha	⇒	3.3ha

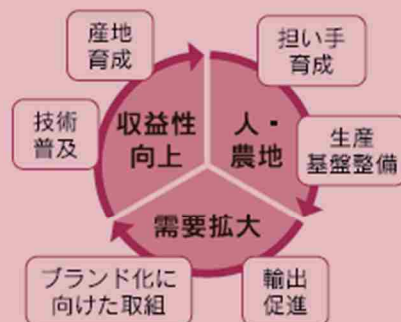
◆施策の展開と体系

総合指標を達成するための各施策体系は以下のとおりである。

未来へ紡ぐ！豊かで成長し続ける農業・農村の確立

成長産業として
農業の持続的な発展

【産業政策】

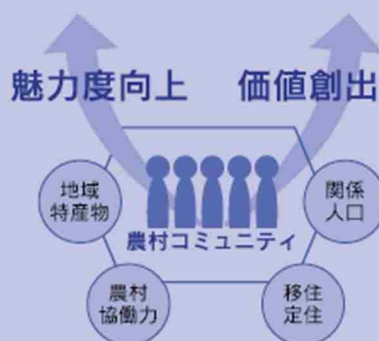


農業を成長産業として持続的に発展させていくために、「人・農地」、「収益性向上」、「需要拡大」を施策の柱として取り組みます。



多面的機能の発揮
農村の持続的な発展

【地域政策】



農業・農村の有する多面的機能や地域コミュニティを維持・発展させるために、「魅力度向上」、「価値創出」を施策の柱として取り組みます。

施策体系

※各施策に関連性の高いSDGs目標をそれぞれのアイコンで示しています。

未来につながる担い手確保と経営基盤の強化【人・農地】

地域農業を支える担い手の確保と農地利用の最適化等による経営体質強化を図ります。

- ・ニューノーマルに対応した多様な農業従事者の確保
- ・地域農業を支える力強い経営体の育成
- ・農地利用の最適化と生産基盤の整備による農業の成長産業化
- ・農地・農業水利施設等の適切な保全管理の推進



次世代につなぐ収益性の高い農業の展開【収益性向上】

効率化や高品質化に結びつく技術革新等により、収益性の高い農業を展開します。

- ・ニューノーマルにおける園芸産地等の競争力強化
- ・国際競争に打ち勝つ強靱な畜産経営の確立
- ・地域の特性を生かした持続的な水田農業の展開
- ・DXを背景としたスマート農業等の新技術や新品種の研究開発と普及促進
- ・農業経営の安定化に向けたリスクマネジメントの強化



豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大【需要拡大】

消費者の求める農畜産物の生産やその生産物を価値ありと認めてもらうことにより競争力を高め、国内外における需要拡大を図ります。

- ・県産農畜産物の「強み」を生かした魅力発信と需要拡大
- ・農畜産物等の輸出促進による販路拡大
- ・食の地産地消の推進による地域内の経済循環の向上
- ・安全確保策に基づく安全・安心な農畜産物の提供



魅力あふれる農村の持続的な発展【魅力度向上】

本県固有の風土が培った地域リソースの活用等により、農村の魅力を向上させ、持続的に発展する農村の実現を図ります。

- ・歴史的・文化的背景を持つ多彩な地域特産物の生産振興
- ・資源循環を目指した環境保全型農業の推進
- ・誰もが安心して暮らせる農村地域の実現に向けた防災・減災対策の強化
- ・官民共創による野生鳥獣被害防止対策の強化



ニューノーマルがもたらす農村の新たな価値の創出【価値創出】

今までにない農村の新たな価値を生み出し、関係人口の拡大・深化や移住・定住の促進により、農村の活性化を図ります。

- ・「快疎」な空間としての農村地域を求める関係人口の拡大・深化
- ・農村協働力（地域の絆）の深化による多面的機能の維持・発揮



施策体系は上記のとおりであり細かくは19の施策へ展開している。

また、19の施策展開方法とは別に特に重点的に取り組む必要がある13の課題について、以下のように「重点プロジェクト」として【A】～【M】まで設定している。

【A】県産農畜産物の「強み」を生かした需要拡大と生産振興
・「健康」をキーワードとした県産農畜産物の新たな「強み」を最大限生かした需要拡大と生産振興
【B】地域ぐるみによる新たな担い手の確保
・総合的にサポートする受入体制づくりの推進による新たな担い手の確保・育成
【C】経営感覚に優れた企業的経営体の育成
・農業経営相談所の伴走支援等による担い手の経営発展や企業的経営体の育成
【D】各地域（集落）の話し合いに基づく農地の集積・集約化促進
・地域の状況に応じた農地中間管理事業等を活用した農地集積・集約化の促進
【E】効果を実感できる鳥獣被害対策の推進
・野生鳥獣の被害軽減に向けた「捕る」「守る」「知る」対策の一体的かつ重点的な推進
【F】日本をリードする「野菜王国・ぐんま」の実現
・きゅうり、夏秋なす、ほうれんそうの産地強化・出荷量日本一、いちご「やよいひめ」の生産振興
【G】ぐんま型「水田フル活用」の推進
・ぐんま型「水田フル活用」の推進、生産性向上に向けたICT等の高度先端技術の導入推進
【H】歴史的・文化的背景をもつ蚕糸業の再構築と新産業創出の推進
・生産基盤の強化、多様な養蚕担い手の確保・育成、新産業創出に向けた取組の促進
【I】消費者に選ばれる新たなブランド品目の育成
・消費者に「食べる価値あり」「買う価値あり」と認めてもらうための様々な取組の推進
【J】海外需要に対応した県産青果物の輸出促進
・需要の多い品目の更なる輸出促進、新たに輸出が見込まれる国・地域の需要に応じた生産振興
【K】収益性に優れた畜産経営体の創出
・ICT等の活用による飼養管理の効率化・高度化、高栄養・高収量飼料作物を中心とした飼料増産
【L】「快疎」な空間を求める関係人口の創出・拡大を契機とした中山間地域の活性化
・関係人口の創出・拡大を契機とした移住・定住の促進による中山間地域の振興
【M】誰もが安心して暮らせる農村地域の実現に向けた防災・減災対策の強化
・防災重点ため池におけるソフト対策・ハード対策の実施、適切な管理・保全の強化

3. 各施策の指標について

(1) 総合指標について

＜総合指標＞

指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
農業産出額	億円	2,361	2,404	2,473	2,655	2,600

【監査人コメント】

令和5年度において目標は達成されている。ただし、農業産出額の増加は最近の物価上昇率等が大きく影響されていることが考えられるため、当該事情等を踏まえて目標年度の指標を再設定（上方修正）することを検討すべきである。

指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
1 農業経営体あたりの生産農業所得	万円	414	466	439	479	540
1 農業経営体あたりの耕地面積	ha	3.1	3.3	3.4	3.4	3.3

【監査人コメント】

農業算出額の目標値達成に伴い順調に推移している。ただし、1 農業経営体あたりの生産農業所得については農業算出額と同様、最近の物価上昇率等を踏まえて指標を再設定（上方修正）することを検討すべきである。

(2) 各施策の指標及び評価等について

個別の施策は全部で19個あり（以下の**展開方法1～19**）、全体目標を達成するために5つの基本施策（人・農地、収益性向上、需要拡大、魅力度向上、価値創出）のもと各展開方法が設定されている。

以下は、**展開方法1～19**における数値目標の基準年度（原則として令和元年度）、過去3か年（令和3年度～令和5年度）の実績値及び目標年度（令和7年度）を並べた表である。

県では毎年度、各展開方法について自己評価（A～D評価）を行っている。

それらを踏まえて監査人としても各指標の令和5年度実績をもとに進捗率を算出、コメントを付している。

基本施策

未来につながる担い手確保と経営基盤の強化（人・農地）

展開方法 1 ニューノーマルに対応した多様な農業従事者の確保

＜施策の取り組み方法＞

- 1 新規就農に向けた支援の拡大
- 2 人材育成のための農業教育の充実
- 3 農外からの企業参入の推進
- 4 農業を支える人材の確保

＜数値目標＞

関連事業 No. (注)	目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
3、5	新規就農者数 ※①	人	170	222	409	583	850
2、3、5	新規就農者数 ※②	人	57	75	146	223	350
1	企業の農業への参入件数	件	81	78	84	未定 ※③	111
—	農福連携（共同受注窓口） 利用農業者数	戸	16	18	19	21	70

(注) 関連事業No.は監査対象とした個別事業No.である。

※①45歳未満（R3年度からの累計） ※②45歳以上65歳以下（同左）

※③令和7年3月末算出予定

自己評価

	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)
達成状況	B	A	A

補足：評価判定の説明

判定	内容（達成状況）
A	計画どおり達成（又は概ね達成）している。（100%≦達成状況）
B	達成ではないが、順調に推進している。引き続き、達成に向けて努力する。（80%≦達成状況<100%）
C	達成に向け努力が必要。必要に応じて施策の展開内容等を再点検し、見直しを検討する。（50%≦達成状況<80%）

D	達成に向け大きく努力が必要。かつ、施策の展開内容を再点検し、必要に応じて抜本的に見直す。(達成状況<50%) ※未実施も含む
---	--

(注)判定に使用する達成率(進捗率)については以下の算式となっている。

【(R5実績－基準年) ÷ (目標値－基準年)】

【監査人コメント】

当該指標は単年度での目標値があり、当該目標値に対しては令和5年度単年及び累計ともに達成している。よって自己評価は「A」は妥当と判断するが、最終目標年度であるR7年度の数値に対しては少し厳しい状況にあると考える。

展開方法2 地域農業を支える力強い経営体の育成

＜施策の取り組み方法＞

- 1 力強い担い手の育成
- 2 地域農業のリーダー育成と活動促進
- 3 女性農業者の活躍促進

＜数値目標＞

事業No.	目標指標	単位	基準年度(R1)	R3年度(実績)	R4年度(実績)	R5年度(実績)	目標年度(R7)
1	販売農家数	千戸	22.6	20.0	19.5	18.8	16.5
1	担い手数	経営体	6,247	6,840	6,554	6,631	7,040
—	県・国による認定農業者数(累計)	経営体	0	279	364	437	700
—	集落営農組織数	組織	134	130	129	130	140
2	家族経営協定締結数	戸	2,106	2,168	2,167	2,133	2,238
2、6	農業委員に占める女性比率	%	15.7	18.2	18.1	18.2	30.0
2	農村女性起業数	件	300	294	279	259	330

自己評価

	R3年度	R4年度	R5年度
--	------	------	------

	(実績)	(実績)	(実績)
達成状況	B	A	B

【監査人コメント】

順調な指標もあるが、昨年度の実績に対して数値が下落している指標もあり自己評価は「B」にしていると思われる。しかしながら、7つの指標で進捗率が80%以上の項目はなくマイナスの項目(基準年度を下回っている状況)もあり実態は「C」ないし「D」に近い状況にあると考える。

展開方法3 農地利用の最適化と生産基盤の整備による農業の成長産業化

＜施策の取り組み方法＞

- 1 地域計画の策定と実現支援
- 2 遊休農地の発生抑制と再生支援
- 3 農地制度による優良農地の確保
- 4 生産基盤整備の推進

＜数値目標＞

事業No.	目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
—	地域計画又は実質化された人・農地プランに基づき取組を実践している地区(集落)の割合	%	—	85	81	目標達成	80
7	再生可能な遊休農地(1号)面積	ha	1,436	1,710	1,673	1,718	656
—	農用地区域内の農地(耕地)面積	ha	59,255	58,697	57,606	57,398	58,000
10、11	生産基盤整備事業を契	ha	332	433	460	499	517

	機に担い手 へ集積する 農地面積						
--	------------------------	--	--	--	--	--	--

(注)目標達成とある指標は令和4年度で調査を終了している項目である(既に目標値を達成したため)。

自己評価

	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)
達成状況	B	B	B

【監査人コメント】

既に目標を達成している項目及び進捗率が100%を超えている項目もあるが、進捗率がマイナスの項目もあり自己評価「B」は妥当と考える。

展開方法4 農地・農業水利施設等の適切な保全管理の推進

＜施策の取り組み方法＞

- 1 農業水利施設の保全による農業用水の安定供給
- 2 農地・農業用施設の保全

＜数値目標＞

事業No.	目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
17	基幹農業 水利施設 の長寿命 化対策工 事を完成 させる地 区数	地区	17	21	21	22	29

自己評価

	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)
達成状況	A	A	A

【監査人コメント】

一見、目標数値に対しては順調に推移している状況には見えないが、当初より令和6年度及び令和7年度での工事集約(集中)計画であり、計画どおりであるため自己評価は「A」としている。

次世代につなぐ収益性の高い農業の展開（収益性向上）

展開方法 5 ニューノーマルにおける園芸産地等の競争力強化

＜施策の取り組み方法＞

- 1 担い手が育つ「儲かる野菜経営と活力ある野菜産地」の実現
- 2 世界で戦えるこんにゃく産地の育成
- 3 競争力ある産地の育成と生産基盤の強化

＜数値目標＞

事業No.	目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
18、19	野菜産出額	億円	912	891	892	956 (未確定)	1,100
18	野菜重点 8品目作付面積	ha	10,070	9,968	10,216	10,252	10,230
18	野菜重点 8品目出荷量	t	433,230	417,800	428,290	426,570	441,800
18、20	指定野菜 価格安定 制度交付 予約数量	t	244,265	244,265	244,265	247,375	250,000
—	こんにゃく栽培面積 10ha以上の農家数	戸	71	75	74	72	81
—	「みやま まさり」栽培面積	ha	1,519	1,598	1,616	1,633	2,192
—	こんにゃく越冬栽培面積	ha	28	48	53	66	42
—	観光果樹 品目収穫量（りん	t	13,740	11,040	12,370	10,800	14,100

	ご、ぶどう、なし)						
—	果樹改植面積（累計）	ha	37.4	43.8	46.6	48.8	62.4
—	花き産出額	億円	51	53	55	55	60
—	きのこ産出額	億円	52	42	42	51	56

自己評価

	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)
達成状況	B	B	B

監査人コメント

11 ある指標のうち進捗率 100%を超えている項目が 2 つあるが、マイナスの指標も 3 つある。その他の項目はいずれも低位（10%～54%）であり、実態は「C」ないし「D」に近い状況と考える。

展開方法 6 国際競争に打ち勝つ強靱な畜産経営の確立

＜施策の取り組み方法＞

- 1 家畜の伝染性疾病的発生予防とまん延防止対策の徹底
- 2 生産基盤の強化と畜産物の安定供給
- 3 地域と調和した畜産経営の確立

＜数値目標＞

事業No.	目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
—	乳用未經産牛頭数	頭	10,700	10,400	10,100	9,500	10,500
—	豚飼養頭数	頭	629,600	604,800	593,700	610,800	634,000
—	飼料自給率（酪農ベース）	%	37.2	37.0	37.1	38.0	40.0

自己評価

	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)
--	--------------	--------------	--------------

達成状況	B	B	B
------	---	---	---

【監査人コメント】

3つある指標のうち1つは100%を超えている（ただし、当該指標は基準年度より目標年度の数値が低い設定である）が、残り2つの指標は30%程度の項目とマイナスの進捗率であり、自己評価は「B」としているが実態は「C」に近い状況と思われる。

展開方法7 地域の特性を生かした持続的な水田農業の展開

＜施策の取り組み方法＞

- 1 売れる米づくりの推進
- 2 水田における高収益作物等の作付拡大
- 3 ニーズに応じた高品質な麦の生産

＜数値目標＞

事業No.	目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
25、26	うるち玄米一等比率	%	89.7	90.6	90.6	57.6	90
25、26	「いなほっこり」等作付面積	ha	100	130	270	600	500
25、26	ブランド米作付面積	ha	355	345	397	411	450
25、26	「さとのそら」の農産物検査数量割合	%	5.5	4.6	4.8	5.0	10
25、26	「ゆめかおり」のタンパク質含有率	%	11.2	12.3	12.4	12.3	13～14

自己評価

	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)
達成状況	B	B	B

【監査人コメント】

5項目ある指標のうち100%を超えている項目は1つあるものの、その他の項目はマイナスの進捗率あるいは低位（39%～61%程度）であり、自己評価は「B」としているが実態は「C」と思われる。なお、天候等に大きく左右される指標については見直しが必要と考える。

展開方法8 DXを背景としたスマート農業等の新技術や新品種の研究開発と普及促進

＜施策の取り組み方法＞

- 1 地域に根ざした技術開発の推進
- 2 産地の将来を見据えたスマート農業の普及促進

＜数値目標＞

事業No.	目標指標	単位	基準年度（R1）	R3年度（実績）	R4年度（実績）	R5年度（実績）	目標年度（R7）
27、28	ぐんま農業新技術・技術情報資料の件数	件	23	16	22	19	20以上
—	施設園芸における環境制御技術導入農家数	戸	97	143	153	158	160
—	水田作におけるスマート農業機械導入農家数	戸	45	71	79	102	110

自己評価

	R3年度（実績）	R4年度（実績）	R5年度（実績）
達成状況	A	A	A

【監査人コメント】

進捗率が100%を超えている項目は1つ、残りの2項目についても90%前後であり自己評価を「A」としても差し支えないと考える。

展開方法9 農業経営の安定化に向けたリスクマネジメントの強化

＜施策の取り組み方法＞

- 1 農業生産工程管理（GAP）の導入推進
- 2 農作業安全対策の推進

- 3 セーフティネット対策の強化による農業経営の安定
- 4 家畜の伝染性疾病の発生予防とまん延防止対策の徹底（再掲）

＜数値目標＞

事業No.	目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
—	GAP の取組 組織数	組織	100	126	131	134	140
—	農作業死亡 事故件数	件	5	8	6	6	0

自己評価

	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)
達成状況	B	B	B

【監査人コメント】

2つの指標のうち1つは進捗率が85%であるが、もう一方はマイナスの進捗率であり実態は「C」に近い状況と考える。

豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大（需要拡大）

展開方法10 県産農畜産物の「強み」を生かした魅力発信と需要拡大

＜施策の取り組み方法＞

- 1 新たな品種・品目のブランド化に向けた取組
- 2 産地としての群馬県のイメージ向上
- 3 6次産業化活動の支援

＜数値目標＞

事業No.	目標指標	単位	基準年 度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年 度 (R7)
29	群馬県産農 畜産物を 「買いたい」「食べ たい」と考 えている消費 者の割合	%	31.5 (R2年)	31.6	34.1	33.9	33.6

29	PR 動画の 年間総視聴 回数	回	15,097 (R2年)	22,488	69,999	136,227	30,000
—	農業生産関 連事業年間 総販売額 (6次産業 化総合調 査)	百 万 円	66,465	59,064	66,784	未定 ※	70,554

※令和7年3月末算出予定

自己評価

	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)
達成状況	B	B	A

監査人コメント

未定の指標が1つあるが、残り2つの指標については進捗率100%を超えており自己評価「A」は妥当と考える。

展開方法11 農畜産物等の輸出促進による販路拡大

＜施策の取り組み方法＞

- 1 農畜産物等の輸出による販路拡大
- 2 海外需要に応じた生産・環境の整備

＜数値目標＞

事業No.	目標指標	単位	基準年 度(R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年 度(R7)
30	青果物輸出 金額	百万 円	116	9	8	9	200
30	輸出に取り 組む産地・ 事業者数	産 地・ 者	13	17	25	35	26

自己評価

	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)
達成状況	C	B	C

【監査人コメント】

輸出に取り組む産地・事業者数は目標値を超過している（進捗率 169%）ものの青果物輸出金額がまったく伸びておらず（進捗率△127%）、目標数値には厳しい状況である。自己評価「C」は妥当と考える。

展開方法 12 食の地産地消の推進による地域内の経済循環の向上

＜施策の取り組み方法＞

- 1 地産地消の推進による県民の県産農畜産物への愛着醸成
- 2 地域の郷土料理等の食文化への理解促進

＜数値目標＞

事業No.	目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
—	ぐんま地産地消優良店認定店舗数	店舗	69	72	85	88	110
—	郷土料理や伝統料理等の地域や家庭で受け継がれてきた料理や味について知っている県民の割合	%	47.2	未定 ※	未定 ※	未定 ※	60

※令和7年3月末算出予定

自己評価

	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)
達成状況	B	B	A

【監査人コメント】

1つは未定の指標であり、かつ、もう1つの指標も進捗率としては46%である。自己評価は「A」としているが実態は「B」ないし「C」に近い状況であると思われる。

展開方法 13 安全確保策に基づく安全・安心な農畜産物の提供

＜施策の取り組み方法＞

- 1 食と農に対する県民の理解促進と安心の提供
- 2 農薬の適正使用と危害防止対策の推進
- 3 生産農場段階における畜産物の安全性の確保
- 4 検査・確認体制の充実

＜数値目標＞

事業No.	目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
—	リスクコミュニケーション事業年間参加人数	人	2,784	2,256	2,977	3,513	3,000以上
—	動物用医薬品販売業者への立入検査割合	%	31.8	40.7	39.3	34.5	33.0以上
—	講習会等での農薬適正使用指導回数	回	1,315	827	1,017	1,012	1,300以上

自己評価

	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)
達成状況	B	B	A

【監査人コメント】

3つのうち2つの項目は目標値を超えており自己評価「A」は妥当と考える。

魅力あふれる農村の持続的な発展（魅力度向上）

展開方法 14 歴史的・文化的背景を持つ多彩な地域特産物の生産振興

＜施策の取り組み方法＞

- 1 多彩な特産物の生産による活力と魅力ある地域づくり

＜数値目標＞

事業No.	目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
-------	------	----	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

31、32	繭生産量	t	36	22.2	19	19	50
31、32	養蚕経営体一戸当たり繭生産量	kg	353	308	306	319	500
—	ハコスチ生産量	t	9	6.3	14.5	12	30

自己評価

	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)
達成状況	C	B	B

【監査人コメント】

「養蚕経営体一戸当たり繭生産量」は増加傾向にはあるが進捗率としてはマイナスである。また、「繭生産量」自体はまったく伸びておらず経営体の総数が減少している状況である。達成状況として自己評価は「B」としているが、実態としては「D」に近い状況と考えられる。

展開方法 15 資源循環を目指した環境保全型農業の推進

＜施策の取り組み方法＞

- 1 環境保全型農業の推進
- 2 病虫害の発生状況を考慮した効果的な防除の推進
- 3 食品ロス「ゼロ」の推進

＜数値目標＞

事業No.	目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
—	エコファーマー認定者数 (累計)	人	5,728	6,047	6,475	6,687	6,920
33	病虫害発生予察情報の提供回数 (年間)	回	16	18	20	18	12

自己評価

	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)
達成状況	B	B	B

【監査人コメント】

指標のうちエコファーマー認定者数（累計）は概ね順調に推移しているが（進捗率 80%）、病虫害発生予察情報の提供回数（年間）はマイナスの進捗率である（情報提供回数が基準年度よりも増加したため）。ただし、情報提供の回数はその利用者（農家等）にとっては多いほど有用であると考えられるため自己評価「B」は妥当と考える。なお、当該指標は提供回数を減少させることが目的ではないと思われるため指標そのものを見直すことを検討すべきである。

展開方法 16 誰もが安心して暮らせる農村地域の実現に向けた防災・減災対策の強化

＜施策の取り組み方法＞

- 1 防災重点ため池の豪雨・地震対策
- 2 農村の防災・減災対策

＜数値目標＞

事業No.	目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
17	ハザードマップの作成及び豪雨・地震における詳細調査を完了させる防災重点ため池数	箇所	60	134	157	166	197

自己評価

	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)
達成状況	A	A	B

【監査人コメント】

伸び率が令和4年度までに比べると鈍化（進捗率 77%）しており、自己評価「B」は妥当と考える。

展開方法 17 官民共創による野生鳥獣被害防止対策の強化

＜施策の取り組み方法＞

- 1 効果的な被害対策の推進と人材育成
- 2 地域の一体的な取組の推進

＜数値目標＞

事業No.	目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
34、35	野生鳥獣 による農 作物被害 額	千 円	337,746	345,150	277,904	322,551	176,000
34、35	野生鳥獣 による農 作物被害 面積	ha	186	196	142	130	134

自己評価

	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)
達成状況	B	B	B

【監査人コメント】

「野生鳥獣による作物被害面積」は減少傾向にあり現状でも目標値を達成しているが（進捗率 108%）、「野生鳥獣による農作物被害額」は前年比で増加傾向にあり R7 年度の目標に対しては厳しい現状である（進捗率 9 %）。自己評価は「B」としているが実態は「C」に近い状況と思われる。

ニューノーマルがもたらす農村の新たな価値の創出（価値創出）

展開方法 18 「快疎」な空間としての農村地域を求める関係人口の拡大・深化

＜施策の取り組み方法＞

- 1 本県の固有の風土が培った地域資源の磨き上げ
- 2 農村の魅力発信による関係人口の創出
- 3 特色ある農泊等の推進による関係人口の拡大・深化
- 4 関係機関と連携した農村への移住・定住の促進
- 5 多様な人材を巻き込むことによる地域コミュニティの活性化

＜数値目標＞

事業No.	目標指標	単位	基準年 度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年 度 (R7)
—	「農泊モデル地区」の 支援数	地区	0	1	2	2	3

自己評価

	R3年度	R4年度	R5年度
--	------	------	------

	(実績)	(実績)	(実績)
達成状況	B	A	A

【監査人コメント】

前年実績と同じ状況ではあるが目標数値に対しては順調に推移しているため（進捗率は67%ではあるが）、自己評価を「A」としても差し支えないと考える。

展開方法 19 農村協働力（地域の絆）の深化による多面的機能の維持・発揮

＜施策の取り組み方法＞

- 1 協働活動による多面的機能の維持・発揮
- 2 中山間地域の農業生産活動の支援

＜数値目標＞

事業No.	目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
—	農地・農業用施設の維持・保全が図られた農地面積	ha	17,553	18,951	18,869	19,467	20,000

自己評価

	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)
達成状況	A	A	A

【監査人コメント】

目標数値に対しては順調に推移しているが、進捗率は78%である。自己評価は「A」としているが、基準に照らせば実態は「B」に近いと思われる。

以下は、重点プロジェクト(地域重点プロジェクトを含む)における指標であるが、県として自己評価は行っていないため監査人としても各指標の進捗率を計算した上での判定は行っていない。(ただし、コメントは記載している)

重点プロジェクト

A 県産農畜産物の「強み」を生かした需要拡大と生産振興

＜施策の取り組み方法＞

- 1 「強み」を生かしたプロモーション
- 2 「強み」を引き出す技術革新

3 「強み」を高める営農支援

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
年間分析品目数	回 / 年	1	6	6	6	4
PR 動画の年間総視聴回数(再掲)	回	15,097 (R2)	22,488	69,999	136,227	30,000

【監査人コメント】

2項目ともに目標値を既に達成している状況である。目標値の再設定等を行うことも視野に入れるべきと考える。

B 地域ぐるみによる新たな担い手の確保

＜施策の取り組み方法＞

- 1 関係者が一丸となった産地受入体制の整備
- 2 産地受入体制の充実強化と情報発信
- 3 新規参入者の定着支援

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
就農受入体制整備産地数(延べ)	産地	8	10	11	13	20 (2産地/年)
産地受入者数(就農者)(延べ)	人	4	8	20	23	20 (4産地/年)

【監査人コメント】

「産地受入者数」は目標値を達成しているが、「就農受入体制整備産地数」の伸びが鈍化している状況にある。

C 経営感覚に優れた企業的経営体の育成

＜施策の取り組み方法＞

- 1 企業的経営体に向けた発展支援
- 2 農業経営の法人化の推進

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
農業法人数	法人	815	918	970	1,012	1,100
農業経営相談 所による重点 指導農業者数 (累計)	経営 体	97	177	192	203	307
販売金額 100 万円以上の農 家の平均販売 金額	千円	19,800	21,814	25,494	26,550	23,200

【監査人コメント】

概ね目標数値に対しては順調に推移している。

D 各地域（集落）の話合いに基づく農地の集積・集約化促進

＜施策の取り組み方法＞

- 1 農地中間管理事業の実施体制の充実・強化
- 2 農地中間管理事業を活用した農地の集積・集約化

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
耕地面積	ha	67,600	65,900	64,900	63,800	62,000
担い手への農 地集積率	%	38.8	41.6	42.4	43.8	66

【監査人コメント】

「担い手への農地集積率」の伸び率が鈍化しており目標数地の達成は厳しい状況と
思われるため目標値の再設定も視野に入れて検討すべきである。

E 効果を実感できる鳥獣被害対策の推進

＜施策の取り組み方法＞

- 1 被害減少効果のある捕獲の取組強化
- 2 地域ぐるみによる被害対策の推進

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
------	----	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

野生鳥獣による農作物被害額（再掲）	千円	337,746	345,150	277,904	322,551	176,000
地域ぐるみによる被害対策の取組地域数（延べ）	地域	5	13	17	21	35 （5地域 /年）

【監査人コメント】

「地域ぐるみ被害対策の取組地域数」は順調に推移しているが、「野生鳥獣による農作物被害額」は前年比で増加傾向にあり R7 年度の目標に対しては厳しい現状にあると思われる。

F 日本をリードする「野菜王国・ぐんま」の実現

＜施策の取り組み方法＞

- 1 日本一に向けたきゅうり産地の育成
- 2 活気ある日本一の夏秋なす産地の強化
- 3 続け日本一！ほうれんそう産地の育成
- 4 ぐんまのいちご「やよいひめ」の生産振興

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
きゅうり出荷量	t	52,900	48,400	50,000	48,500	53,600
全国順位	位	2	2	2	2	2
夏秋なす出荷量	t	16,600	17,200	19,100	18,100	17,500
全国順位	位	1	1	1	1	1
ほうれんそう出荷量	t	18,500	19,500	20,200	20,300	20,400
全国順位	位	2	1	1	1	1
いちご出荷量	t	2,730	2,580	2,590	2,570	3,120

【監査人コメント】

一部前年実績を下回っている指標もあるが概ね順調に推移している。「いちご出荷量」についても出荷量だけではなく、他の野菜等と同様、「全国順位」の目標を設定することも検討すべきと考える。

G めんま型「水田フル活用」の推進

＜施策の取り組み方法＞

- 1 水田における高収益作物等の作付拡大
- 2 高度先端技術の導入による省力化・高品質生産

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
高収益作物等の作付面積	ha	1,394	1,449	1,453	1,422	1,700
高度先端技術導入経営体数 (収量コンバイン、管理システム)	経営体	18	36	40	49	30

【監査人コメント】

「高度先端技術導入経営体数」は順調に増加しており既に目標年度の数値を達成しているが、「高収益作物等の作付面積」は伸び悩んでいる状況である。後者については指標の見直し(現実的な数値へ再設定)も検討すべきと考える。

H 歴史的・文化的背景をもつ蚕糸業の再構築と新産業創出の推進

＜施策の取り組み方法＞

- 1 県産繭・生糸の安定生産と県産シルクの需要拡大
- 2 多様な養蚕担い手の確保・育成
- 3 遺伝子組換えカイコの飼育と利用拡大

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
新たな養蚕経営体数(H26からの累計)	経営体	23	27	30	33	38
新規用途・遺伝子組換えカイコ等の飼育量	頭	300,000	300,000	0	11,000	1,500,000

【監査人コメント】

「新たな養蚕経営体数」は増加しているが、「新規用途・遺伝子組換えカイコ等の飼育量」は増加するどころか減少の一途であり、目標数値の変更は必須と考える。ま

た、「新たな養蚕経営体数」はあくまで過去からの累計の数であり、減少している経営体の数は考慮していないため実質的な増加数等の把握も検討すべきと考える。

I 消費者に選ばれる新たなブランド品目の育成

＜施策の取り組み方法＞

- 1 農畜産物を「食」として提案する機会の創出
- 2 県産農畜産物 PR

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
群馬県産農畜産物を「買いたい」「食べたい」と考えている消費者の割合【再掲】	%	31.5 (R2年)	31.6	34.1	33.9	33.6
PR 動画の年間総視聴回数【再掲】	回	15,097 (R2年)	22,488	69,999	136,227	30,000

【監査人コメント】

展開方法 10 と同様であるため同項参照

J 海外需要に対応した県産青果物の輸出促進

＜施策の取り組み方法＞

- 1 アジア地域における県産青果物の販路拡大
- 2 海外需要に応じた青果物の生産振興・産地育成

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
青果物輸出金額【再掲】	百万円	116	9	8	9	200
輸出に取り組む産地・事業者数【再掲】	産地・事業者	13	17	25	35	26

【監査人コメント】

展開方法 11 と同様であるため同項参照

K 収益力に優れた畜産経営体の創出

＜施策の取り組み方法＞

- 1 全国第5位の生乳生産量の維持
- 2 黒毛和牛の改良と経営効率化による肉用牛経営の安定化
- 3 高栄養・高収量飼料作物による飼料コスト低減

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
一戸当たり生乳生産量	t	443	506	549	568	525
枝肉重量(和牛去勢)	kg	508	508	515	513	520
飼料用トウモロコシ作付面積	ha	2,650	2,470	2,430	2,420	2,800
高糖分高消化性イネ WCS 作付面積	ha	53.8	66.4	111.1	154	100

【監査人コメント】

各指標とも目標達成ないし目標数値に近似しており概ね順調な推移をたどっている。数値だけではなく、全国順位等も指標に組み入れることでより目標数値に現実味が出ると思われるため順位等も指標に追加することを検討すべきと考える。

L 「快疎」な空間を求める関係人口の創出・拡大を契機とした中山間地域の活性化

＜施策の取り組み方法＞

- 1 農村の魅力発信による関係人口の創出
- 2 農泊等の推進による関係人口の拡大・深化
- 3 多様な就農形態による移住・定住の促進

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
「農泊モデル地区」の支援数 【再掲】	地区	0	1	2	2	3
中山間地域における新規就	人	35	44	88	117	225

農者数(65歳以下、令和3年度からの累計数)						
------------------------	--	--	--	--	--	--

【監査人コメント】

「中山間地域における新規就農者数」は順調に増加しているが目標数値が高すぎるため残り2年での達成は厳しい状況に見える。目標年度の数値変更を検討すべきと考える。

M 誰もが安心して暮らせる農村地域の実現に向けた防災・減災対策の強化

＜施策の取り組み方法＞

- 1 防災重点ため池におけるハザードマップの作成・周知
- 2 防災重点ため池の豪雨・地震対策における詳細調査と改修・補強
- 3 農業用ため池の管理強化

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
ハザードマップの作成及び豪雨・地震における詳細調査を完了させる防災重点ため池数【再掲】	箇所	60	134	157	166	197

【監査人コメント】

展開方法 **16** と同様であるため同項参照

地域農業の振興

中部地域

地域重点プロジェクト

A 集落営農法人等の体質強化

＜推進内容＞

- 中長期ビジョンによる法人の体質強化
- 組織活動支援と法人間連携の推進
- スマート農業の導入による省力化の推進
- 農地中間管理事業等を活用した農地の集積・集約化の推進
- 収益性の高い作物導入による経営安定の推進

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
体質強化に取り組んだ集落営農法人数	法人	0	3	6	7	10
飼料作物(飼料イネ・飼料用麦・飼料用トウモロコシ)の作業受託面積	ha	275	287	300	331	310

【監査人コメント】

指標2項目ともに順調に推移している。

B きゅうり・なす産地の強化

＜推進内容＞

- 産地の持続的な発展に向けた担い手の確保・育成
- 新規栽培者の確保と早期の技術習得による定着支援
- 生産性向上を図る機械・施設の整備支援や環境制御技術の確立・普及
- 選果施設の有効活用や共選共販体制の強化に向けた取組の推進
- 出荷調製作業の効率化・品質向上に向けた取組の支援

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
きゅうり出荷量	t	12,700	12,075	12,031	11,950	14,000
なす出荷量	t	5,327	5,651	5,975	6,408	6,000

【監査人コメント】

「きゅうり出荷量」は減少傾向にあるが、概ね順調に推移している。

西部地域

地域重点プロジェクト

A こんにゃく栽培を中心とした松義台地等の農業振興

＜推進内容＞

- 地域の話合いによる担い手への農地集積・集約の推進
- こんにゃくの生産組織支援等による担い手の確保・育成、労働力確保

- こんにゃくの安定生産に向けた栽培・経営支援
- 栽培に適した農業用排水路等の改善、整備の検討・提案

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
松義台地の担い手への農地集積	ha	85.6	104.4	111.7	110.1	120
こんにゃく越冬栽培面積	ha	27	52	53	60	70

【監査人コメント】

指標2項目ともに順調に推移している。

B 果樹産地（なし、うめ等）の活性化

＜推進内容＞

- 新たな担い手の確保・育成と栽培技術の向上支援
- 産地維持のための改植推進と遊休園地の発生抑制
- 新品種や新技術の導入・拡大
- 果樹産地の情報発信等による販売力強化

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
果樹（なし、うめ等）改植面積	ha	4.1	5.8	7.4	8.3	10.3
ナシハダニ天敵導入農家数	戸	11	18	24	26	35

【監査人コメント】

指標2項目ともに順調に推移している。

C いちご産地活性化

＜推進内容＞

- いちご新規生産者の確保・育成
- ICT等の技術導入による生産性・品質向上
- IPM技術導入による環境に優しい農業への取組
- GAP導入による経営改善

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
いちご 10a あたり収量 (2JA)	kg	4,285	4,273	4,246	3,920	4,500
IPM技術導入農家戸数 (全域)	戸	57	86	89	84	76

【監査人コメント】

「IPM技術導入農家戸数」は増加傾向にあるが、「いちご 10a」あたり収量は減少している。

吾妻地域

地域重点プロジェクト

A あがつまの農業を元気にする担い手確保と地域農業の構築

＜推進内容＞

- 新規就農者の育成支援、受入体制の整備支援
- 集落営農組織や集落における中心経営体の活動強化支援
- 農業水利施設等の計画的な保全対策推進

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
受入協議会活動による新規就農者数 (累計)	人	10	13	16	16	21
集落営農組織の栽培面積・作業受託面積	ha	51	53.1	53.3	53.6	56.6

【監査人コメント】

指標2項目ともに数値が鈍化している状況にはあるため、目標年度の数値を変更することを視野に入れるべきと考える。

B 全国に誇れる高原野菜の産地力強化

＜推進内容＞

- 高原野菜の緑肥を組み合わせた輪作体系による生産安定
- 苗移植機等導入支援による労働力の低減と規模拡大

- 緑肥やグリーンベルト、沈砂池による傾斜地ほ場の表土流亡の軽減
- 野生鳥獣による農作物被害額の軽減支援

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
吾妻西部の高原野菜の出荷量	万ケース	1,932	1,907	1,885	1,871	2,030
吾妻西部の野生鳥獣による農作物被害額	千円	170,805	183,746	157,071	200,654	95,000

【監査人コメント】

「吾妻西部の高原野菜の出荷量」は数値が鈍化しており、また「吾妻西部の野生鳥獣による農作物被害額」は改善の傾向が見られないため目標年度の数値変更を検討すべきと考える。

C 北軽井沢応桑地区における収益性の高い酪農経営の確立

＜推進内容＞

- 育成牧場を活用した後継牛確保による増頭
- 飼養管理方法の見直しによる高品質生乳生産の支援
- 混合飼料増産による飼料費のコスト低減への支援

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
1戸当たりの成牛頭数(24ヶ月以上)	頭	66	81	88	94	69
生乳体細胞数300千個/ml以下の農家割合	%	83	87	88	86	90
TMR※センター利用農家の飼養頭数	頭	576	1,020	848	887	1,452

【監査人コメント】

3項目中、2項目は順調に推移している。「TMRセンター利用農家の飼養頭数」については年度によって増減が激しく増加傾向にあるわけではない。

※TMR とは Total Mixed Ration の頭文字を取ったもので、日本語では「完全混合 飼料」と呼ばれている。原料には粗飼料、濃厚飼料、ビタミン、ミネラル等が用いられ、これらを混ぜ合わせて牛に与える。

利根沼田地域

地域重点プロジェクト

A トマト・レタスを核とした競争力の高い野菜産地の育成

＜推進内容＞

- 生産基盤強化へ向けた園芸施設の導入支援
- 省力化に向けた機械・装置等の導入支援
- 新規栽培者の定着支援、省力化技術の普及と向上支援
- 高品質安定生産に向けた栽培技術の普及促進
- スマート農業等の新技術や GAP 手法を用いた栽培管理の導入支援

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
トマト販売出荷量(JA利根沼田)	千ケース	1,630	1,649	1,629	1,679	1,700
レタス販売出荷量(JA利根沼田)	千ケース	2,376	2,429	2,563	2,718	2,500

【監査人コメント】

指標2項目ともに順調に推移している。地区での目標であるため順位設定等は難しいと思われるが「レタス販売出荷量」については全県での大半を同地区が占めるため全国順位等の指標を設定することも検討すべきと考える。

B 片品村牛の平地区における農地集積促進対策

＜推進内容＞

- 農業用水整備と区画整理による優良農地の確保と遊休農地の解消
- 担い手への農地集積・集約化の推進
- 地域農業を支える担い手や新規就農者の確保・育成

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
------	----	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

牛の平地区における担い手への農地集積面積	ha	0	0	4.2	10.5	14.6
牛の平地区における担い手数	人	1	1	4	7	7

【監査人コメント】

指標 2 項目ともに順調に推移している。

東部地域

地域重点プロジェクト

A ニューノーマルに対応した加工業務用野菜産地化の推進

＜推進内容＞

- 担い手への農地集積・集約化の推進
- 加工業務用野菜（キャベツ、レタス等）の生産安定や規模拡大
- 高収益作物の導入・拡大に対応したほ場整備の推進
- スマート農業等の活用による省力・低コスト化と品質向上

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
担い手への農地集積率	%	55.5	61.1	62.7	65.0	66
契約栽培面積	ha	72	96	92	94	111
20a以上の区画整理整備済み耕地面積	ha	2,936	3,021	3,060	3,094	3,070

【監査人コメント】

指標 3 項目全てにおいて目標年度の数値に向けて順調に推移している。

B 地域資源を生かした中山間地域の振興

＜推進内容＞

- 耕作放棄地対策として地域特性を生かした新規作物の導入
- 地域特産物を活用した加工品の開発
- 官民共創による野生鳥獣被害対策の推進

- 農村協働力（地域の絆）の深化による農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮

＜数値目標＞

目標指標	単位	基準年度 (R1)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	目標年度 (R7)
耕作放棄地解消面積	ha	2.9	4.5	4.9	5.5	5.9
新規作物導入数（累計）	作物	6	8	8	8	9
農産加工品創出数（累計）	品目	4	6	10	11	7
野生鳥獣による農作物被害額	千円	13,591	11,682	11,855	11,577	8,430

【監査人コメント】

野生鳥獣による作物被害額については高止まりの状況であり、目標年度の数値の再設定を検討すべきと考える。その他の項目については順調に推移している。

4. テーマの選定にあたり対象とした事業等について

（1）監査上の視点（対象事業の選定方法等）

県の予算附属説明書（主要な事業別に予算設定に加え事業内容を計画している資料）によると、農政部の所管する事業は全部で約 90 あるが、監査上、全ての事業を確認することは効率性・有効性の観点から厳しいと判断した。よって、上記の各施策と関連している事業の中で、かつ、金額的に重要性が高いと判断した事業について監査対象とした。

以下は選定した（監査対象とした）事業と各施策のマトリックスである。

基本 施策	産業政策												地域政策						
	【人・農地】				【収益性向上】				【需要拡大】				【魅力度向上】			【価値 創出】			
事業 No	施策 No (展開方法①～⑱)																		
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲
1	✓	✓																	
2	✓	✓																✓	
3	✓																		

4																						
5	✓																					
6		✓																				
7			✓																			
8			✓	✓																		
9			✓	✓	✓																	
10			✓	✓	✓																	
11			✓	✓																		
12			✓																			
13				✓																		
14				✓																		
15				✓																		
16				✓																		
17				✓																		
18					✓																	
19					✓																	
20					✓																	
21						✓			✓													
22						✓																
23						✓																
24						✓																
25							✓															
26							✓															
27								✓														
28								✓														
29									✓													
30										✓												
31											✓											
32												✓										
33													✓									
34														✓								
35															✓							
36																✓						
関連	4	3	6	8	3	4	2	2	1	1	1	-※	-※	2	1	4	3	1	1			

事業数																			
-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※施策 No12 及び 13 については県として特定の個別事業が設定されていない、あるいは個別事業の計画等はあるものの金額的に僅少な事業であるため監査上は事業として選定（抽出）は行っていない。

（２）監査対象とした事業の概要（予算規模）及び監査手続

以上より、「令和５年度当初予算 予算附属説明書」から、今回の監査テーマに該当する事業を選定し、監査手続を実施した。

具体的には事業の概要（農業事務所における該当事業との関連内容）及び「群馬県農業農村振興計画 2021-2025」との関連等をヒアリングするとともに、事業における主要な費目（需用費、委託料、工事費、補助金等）については明細を入手、内容のヒアリングに加えサンプリングにて各種資料等と照合を実施した。

また、その他、当該事業で設定されている指標（「群馬県農業農村振興計画 2021-2025」で掲載されている指標及びそれ以外の独自指標）についても過去の実績等を確認した。

さらに、昨今、県として力を入れている分野であるデジタル技術の活用状況についてもその内容を含めヒアリング等を実施した。

① 監査対象とした令和５年度農政費に関する事業

（単位：千円）

事業番号	事業名	所属	担当係	予算額
1	農業経営基盤強化対策	農業構造政策課	経営基盤係	160,421
2	農業者育成対策	〃	農業者育成係	13,665
3	新規就農者育成総合対策	〃	経営資金係	317,258
4	農業近代化資金等融通対策	〃	〃	114,251
5	農林大学校	農林大学校	総務係	240,106
6	農業委員会等活動促進	農業構造政策課	農地調整係	320,206
7	農地利用促進対策	〃	経営基盤係	175,793
8	県営農業農村整備調査計画	農村整備課	計画評価係	109,500
9	小規模農村整備	〃	〃	623,850
10	農山漁村地域整備	〃	設備保全係、整備係	855,034

11	農業競争力強化基盤整備	農村整備課	整備係	1, 138, 647
12	農地耕作条件改善	〃	〃	478, 059
13	国営・機構営事業負担	〃	企画係	418, 683
14	基幹水利施設管理	〃	施設保全係	101, 455
15	水利施設管理強化	〃	〃	215, 932
16	相馬原補償工事	〃	整備係	70, 197
17	農業水路等長寿命化・防災減災	〃	施設保全係、整備係	730, 263
18	野菜振興 (「野菜王国・ぐんま」総合対策)	蚕糸園芸課	野菜係	134, 000
19	野菜振興 (園芸産地強化支援)	〃	〃	130, 047
20	野菜価格安定	〃	〃	317, 537
21	家畜伝染病予防	畜産課	家畜防疫対策室	1, 156, 549
22	浅間牧場草地・施設整備	〃	飼料牧野係	512, 100
23	浅間家畜育成牧場運営	〃	浅間家畜育成牧場	104, 341
24	畜産試験場	畜産試験場	総務係	153, 404
25	農産振興 (経営所得安定対策等推進)	蚕糸園芸課	農産振興室 農産係	84, 482
26	農産振興 (水田等利活用自給力向上)	〃	〃	916, 595
27	農業技術センター (農業機械化研究～園芸作物研究)	農業技術センター	総務係	36, 156
28	農業技術センター (普通作物研究～地球温暖化適応策の調査研究)	〃	〃	30, 460
29	県産農畜産物ブランド力強化対策	ぐんまブランド推進課	販売戦略係	93, 036
30	農畜産物等輸出促進	〃	〃	368, 957
31	日本絹の里運営	蚕糸園芸課	蚕糸係	98, 578
32	蚕糸技術センター	蚕糸技術センター	総務係	69, 997
33	病虫害総合防除対策	技術支援課	農業環境・植	22, 421

	病虫害発生予察		物防疫係	
34	鳥獣害防止	技術支援課	鳥獣害対策係	581, 180
35	鳥獣被害対策支援	鳥獣被害対策支援 センター	企画管理係	73, 602
36	中山間地域等直接支払	農村整備課	中山間振興係	144, 158

② 監査対象とした農業事務所

農業事務所では農政部の各課及び係で計画・実施している事業について農業従事者（農家等）との連絡・相談・指導等橋渡し役を担っている。

監査上は、今回のテーマに関連した農政部の各課業務のうち農業事務所が実施している業務内容について、以下の2つの農業事務所（県内には全5事務所あり）においてヒアリング及び資料の閲覧・確認を行った。

番号	事務所名
37	利根沼田農業事務所
38	中部農業事務所